

令和6年度 羅臼町立羅臼小学校改善プラン（前期）

第1章 児童の姿を踏まえた学校改善プランの柱

(1) 【主体的に学び、学ぶ意識や価値を理解する柱】

- 支持的学級風土の醸成（学級内における心理的安全性の確保）
 - ・自己決定、共感的な態度の価値付け、自己存在感の感受、援助希求のできる環境創り
- 主体的、対話的で深い学びを実現する授業を目指した授業改善
 - ・単元を見通した授業づくり。子どもたちの頭に（？）や（～したい）が浮かぶ授業構成
 - ・学びが深まる教師の意図的な関わり（発問・問い返し・繋ぎ）。
- 本質的な対話を取り入れた授業
 - ・話し合い、伝え合い⇒対話 への深化
- 単位時間の向上的変容（わかった、できた、なるほど、？が深まった（生まれた）など）が子ども自身が見取ることが出来る振り返り。
 - ・学年、教科に応じた、ふり返し方法。（記述若しくはICTへの入力）

(2) 【基礎基本を確実に習得する柱】

- 子どもが向上的変容を実感できる取組。
 - ・100マス計算、漢字フラッシュカードなど（工夫次第）
- 個別最適な学びを実現する取組。
 - ・それぞれの特性に応じた教材・教具・学習形態・ICT活用
- 協働的な学びを実現する取組。
 - ・様々な人との繋がり の設定。（学習形態、地域人材、オンライン）

(3) 【学校生活を充実する柱】

- 安心・安全な学校風土の醸成
 - ・全職員による相談体制確立と児童への浸透。教師の「生徒指導の4つの視点（自己存在感の感受、自己決定、共感的な態度、安心安全な風土）」を意識した教育活動の展開
- いじめの早期発見・早期解決
 - ・全職員による相談体制とアンケート等の実施。計画的な、道徳・学級活動での指導。
- 知床学を中心としたふるさと教育の充実
 - ・児童が楽しみながら知床のことを探求できるような取り組みの工夫。

第2章 学校改善に向けた具体的方策（PDCAサイクルの構築）

(1) 学校経営を改善する具体方策（PDCAサイクル）

- ・4月：学校経営方針（P）⇒7月まで：各種教育活動（教科、特別活動、行事など）（D）⇒7月：学校評価、チャレンジテストなどの評価（C）⇒夏休み：分析・改善方針（A）⇒9月：後期学校経営方針

(2) 学校経営に関わる関係機関との連携に関する具体策

- ① カリキュラムに応じた外部人材・資源との繋がり（CSコーディネーター）
- ② 教育委員会と連携した、公的機関との繋がり

(3) 学習指導を改善する具体方策

- ① 単位時間の授業観察による授業改善（管理職・教職員同士）
- ② 研修・教務を通じた授業改善（PDCAサイクル）

4月：今年度の研修について【研修部】（P）⇒4～6月：授業観察・改善【教員・管理職】（D・C・A）⇒6月：指導主事訪問（C）⇒7月：チャレンジテスト（C）⇒夏休み：授業改善策の検討【教員・管理職】（A）⇒8月～12月：授業観察・改善（D・C・A）⇒12月：チャレンジテスト（C）

(4) 家庭等への具体策

- ① 双方向性の学校アンケートの実施（保護者の自由記述に対して、全てに回答を）
- ② 家庭への積極的な情報公開（学校日より）や連携の強化。